

令和4年度
葉山町生ごみ分別収集実証実験（真名瀬地区）
調査報告書

葉山町
環境課・クリーンセンター
令和4年10月

目次

I 総則

| | | |
|---|-------|---|
| 1 | 調査の背景 | 1 |
| 2 | 調査概要 | 1 |
| 3 | 実験内容 | 3 |
| 4 | 広報 | 4 |

II 実証実験

| | | |
|---|------------|----|
| 1 | 実証実験結果まとめ | 6 |
| 2 | 組成分析調査 | 12 |
| 3 | 調査集計 | 13 |
| 4 | 収集時に把握した事項 | 22 |
| 5 | 聞き取り調査 | 22 |

III 意見・質問・要望等

| | | |
|--|-------|----|
| | アンケート | 24 |
|--|-------|----|

(参考)

| | | |
|--|-----------------------|----|
| | 上山口地区及び真名瀬地区の実験結果（概要） | 33 |
|--|-----------------------|----|

I 総則

1 調査の背景

クリーンセンター再整備において、逗子市との共同施設である生ごみ資源化処理施設を整備予定としており、生ごみを処理するためには、現在の「燃やすごみ」から、調理残渣や食べ残しなどの「生ごみ」と使用済みティッシュや革製品、紙おむつなどの「燃やすごみ」を分別して収集する必要があります。

分別収集方法は、町のごみ量を勘案のうえ、現在の収集体制の大幅な見直しをせず大きな財政負担が避けられ、他の先進自治体でも変更実績がある、週2回の燃やすごみの回収を、生ごみ1回、燃やすごみ1回とすることを想定し、各ごみの分別、保管、出し方等の家庭での課題を確認する必要があるため実証実験を実施するものです。

2 調査概要

(1) 調査の名称

令和4年度葉山町生ごみ分別収集実証実験（真名瀬地区）

(2) 調査の目的

生ごみ分別収集における生ごみ及び燃やすごみの排出課題に関する調査

(3) 実施時期

- ① 準備周知：令和4年4月9日（土）から6月5日（日）まで
- ② 分別収集：令和4年6月6日（月）から8月29日（月）まで

(4) 対象地区

海岸地区【真名瀬地区】36世帯

(5) 協力団体

- ① 団体名：真名瀬町内会【207世帯（令和4年4月1日現在）】
- ② 協力事項：町内会会員への周知のための町内回覧、チラシ配布及び町内会役員会等での意見交換（表I-1）を行いました。

表Ⅰ－１ 真名瀬町内会等との意見交換

| 年月日 | 内容 |
|----------------------------|------------------------------|
| 令和４年４月９日（土） | ○生ごみ分別収集実証実験の概要の説明 ○意見交換 |
| 令和４年４月２７日（水） | ○協力者募集チラシの配布（５月９日まで） |
| 令和４年５月２０日（金） から５月３１日（火） | ○協力者宅に訪問し、実証実験内容を説明 |
| 令和４年６月から８月 | ○毎月一回協力者宅に訪問し、協力者との意見交換を行った。 |
| 令和４年８月２９日（月） から９月９日（金） | ○アンケート調査の実施 |
| 令和４年１０月２１日（金） | ○生ごみ分別収集実証実験結果報告 |

3 実験内容

(1) 分別方法

現在の燃やすごみの分別区分について、次のとおり「生ごみ」と「燃やすごみ」に分別していただきました。

① 生ごみ

人の口に入るもの（食べられるもの）。ただし、次のものを含みます。

- 卵の殻、調理くずや食品くず
- 貝殻や骨など
- 消費期限切れやカビ、傷んだ物
- ティーバッグやドリップバッグ等、生ごみと包装等が一体となった製品（排出時の分別が排出者の過度な負担となることが想定されるため、そのまま生ごみとして出すこととしました。）

② 燃やすごみ

「生ごみ」を除く燃やすごみ

(2) 収集頻度の変更

現在の燃やすごみの週2回収集から、「生ごみ」と「燃やすごみ」をそれぞれ週1回ずつの収集としました。

① 生ごみ：月曜日

② 燃やすごみ：木曜日

(3) 排出方法

次のとおり、排出していただきました。

- ① 透明または半透明の袋に入れて、収集日の8時30分までに自宅の前に出しておく戸別収集（実験前と変更なし）
- ② 臭いが気になる場合は、袋を重ねて出すことも許容する。
- ③ 水切りネットのまま出すことも許容する。
- ④ 食べ残しや未開封食品等は、中身のみ「生ごみ」とし、包装は材質別に「容器包装プラスチック」、「ミックスペーパー」、「燃やすごみ」等の区分に分別して排出する。
- ⑤ 水切り等に使用された新聞紙は、「燃やすごみ」とする。

(4) 保管容器の貸与

生ごみや紙おむつ等の臭い対策のため、希望者に保管容器を貸与しました。（実証実験の周知時に聞き取りを行いました。）

4 広報（真名瀬地区にお住まいの皆様へ）

(1) 実証実験前（募集チラシ）

実証実験への協力者を募集するため、4月27日から図Ⅰ－1のチラシを配布しました。

- 真名瀬町内会会員への町内会による各戸配布

(2) 実証実験前（協力者チラシ）

実証実験協力者に対して分別排出要領を説明するため、5月20日から図Ⅰ－2のチラシを戸別配布により配布しました。

また、希望者には、臭い対策とした保管容器を貸与しました。

- 町職員による戸別訪問

図 I - 1 実証実験前（募集チラシ）広報資料（4月）

真名瀬町内会会員の皆様へ 「生ごみ分別収集実証実験」への協力者を募集します

葉山町では、老朽化したクリーンセンターの再整備を進めており、既存のごみ焼却施設などを解体後、新たに「生ごみ資源化処理施設」などの整備を行います。今年度より解体及び建設工事に着手し、令和7年2月の竣工を予定しています。



【生ごみ資源化処理施設とは…】
家庭から排出された「生ごみ」を収集し、堆肥化させる施設です。堆肥は、町民や農家に配布する計画です。



生ごみ分別収集実証実験

「生ごみ資源化処理施設」で「生ごみ」を堆肥化するため、施設の稼働に合わせて「生ごみ」と「燃やすごみ（生ごみを除く）」は分別して収集する方法に変更します。

収集回数について、「生ごみ」と「燃やすごみ（生ごみを除く）」をこれまでどおり週2回ずつ収集することは大きな財政負担となるため、町では、それぞれ週1回ずつ収集することを想定しています。

そこで、家庭における「生ごみ」と「燃やすごみ（生ごみを除く）」の分別・保管・出し方などの課題を把握し、今後の収集と処理の方法を検討するため、昨年度実施した上山口地区に引き続き、今年度は真名瀬地区で「生ごみ分別収集実証実験」を実施したいと考えています。

（裏面あり） 問合せ先：葉山町 環境課 076-1111

「生ごみ分別収集実証実験」協力者の募集

◆「生ごみ分別収集実証実験」へのご協力について、どちらかに○をつけてください◆
※協力してもよいとご回答いただいた方は住所・氏名を必ずご記入ください

協力してもよい ・ 協力はむずかしい

住所： 区内 氏名： _____

●このチラシを各組長にお渡しください。（各組長は町内会長へお渡しください）
●締切：令和4年5月9日（月）

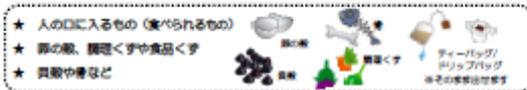
実証実験の内容

(1)実施時期： 令和4年6月～8月の3か月間（予定）
(2)実験内容：

① 生ごみの分別
●燃やすごみに含まれていた「生ごみ」を家庭内で分別してください。

<生ごみとは>

- ★ 人の口に入るもの（食べられるもの）
- ★ 卵の殻、調理くずや食品くず
- ★ 貝殻や骨など



② 収集頻度の変更
●実証実験中は、「生ごみ」「燃やすごみ」の収集が週1回ずつになります。

実験前

「燃やすごみ」
月曜日 木曜日



→

実証実験中

「生ごみ」
月曜日

「燃やすごみ」
（生ごみを除く）
木曜日

図 I - 2 実証実験前（協力者チラシ）広報資料（5月）

生ごみ分別収集実証実験に協力いただく皆様へ

この度は、実証実験にご応募いただきありがとうございます
収集方式を検討するため3か月間（令和4年6月～8月）の実証実験を行います

葉山町では令和6年度に遠守市と共同で「生ごみ資源化処理施設」を建設し、生ごみの堆肥化処理を行い、製造された堆肥は、町民の皆様へ配布等により還元する循環型社会の形成を目指しています。

生ごみを分別収集し、堆肥化処理することで、燃やすごみ量を減少させ、焼却による環境負荷の軽減や焼却処理に投じている税金の削減を目指します。

実証実験中のお願い

- ・「生ごみ」の分別（詳細は裏面をご覧ください）
- ・「収集頻度」の変更（「燃やすごみ」と「生ごみ」を週1回収集）

6月2日まで

「燃やすごみ」
月曜日 木曜日
【今までどおり】



→

6月6日から

「生ごみ」
週1回 月曜日

「燃やすごみ」
（生ごみを除く）
週1回 木曜日

葉山町 環境課 046-876-1111 クリーンセンター 046-876-1153

生ごみとは

週1回 戸別収集 月曜日

- ★ 人の口に入るもの（食べられるもの）
- ★ 卵の殻、調理くずや食品くず
- ★ 貝殻や骨など



「生ごみ」の出し方はどうすればよいの？

- 透明または半透明の袋に入れて出してください
- 臭いが気になる場合は、袋を2重にしても出せます
- 水切りネットのまま出せます

「生ごみ」の中に包装や新聞紙などは入れないでね。

- 包装に入ったままでは出せません
- 包装は、包装フィルム・燃やすごみまたはミックスペーパー等で出してください
- 水切りなどに使用された新聞紙は燃やすごみに出してください



II 実証実験

1 実証実験結果まとめ

真名瀬地区にて得られたごみ量実測値、組成分析調査、真名瀬町内会との意見交換及びアンケート等による意見収集等による情報から実験結果をまとめました。

(1) 分別

① ごみの排出量

組成分析調査により一人一日あたりのごみ排出量を算出しました。

| 品目 | 一人一日あたりのごみ排出量 |
|-------|---------------|
| 生ごみ | 0.151kg/日 |
| 燃やすごみ | 0.146kg/日 |

② ごみ排出量の増減率

実証実験前と比べて、「生ごみ」は増加し、「燃やすごみ」は減少しました。

| 品目 | 実験前からの増減率 |
|-------|-----------|
| 生ごみ | 4.9% |
| 燃やすごみ | △23.6% |

③ 生ごみの分別率（平均値）

生ごみ分別収集に関する分別率は、高い水準となりました。

| 区分 | 分別率 |
|-------------------|-------|
| 重量比 ^{※1} | 94.5% |
| 数量比 ^{※2} | 90.6% |

※1 分別率（重量比）＝生ごみ収集日に排出された生ごみ量÷1週間分の生ごみ総量

※2 分別率（数量比）＝生ごみ収集日に排出された生ごみのみの袋の数÷生ごみ収集日に排出された袋の総数

④ 分別誤りや迷いやすい品目の把握

分別率は高い水準で推移したことから、分別方法は概ねご理解いただけたと思いますが、アンケートの回答や直接ご意見をいただいた品目は以下のとおりです。

ア. アンケート及び聞き取り調査により把握したもの

| 生ごみとして分別が迷う品目 |
|---|
| 【調理くずや食品くず等】 ○コーヒーの粉 ○筍の皮 |
| 【貝殻や骨】 ○アサリ、シジミ等の貝 |
| 【その他】 ○生花 ○コーヒーフィルターやティーバッグ ○麦茶のパック ○排水口水切りネット ○アイスの棒 ○ヨーグルトの内側の銀色のふた ○焼き鳥の串 ○かいわれ大根の根のスポンジ |

イ. 組成分析調査により把握したもの

| 混入のあった品目 |
|--|
| ○アイスの棒 ○食品の容器包装プラスチック ○ティッシュペーパー等 |

(2) 収集頻度

① 生ごみ

週1回収集により生ごみの臭い、溜まったごみの保管場所に困ったとの意見が多くありました。

| アンケート調査結果 |
|---|
| ○収集頻度が週1回になったことで 「困ったことはなかった」と回答した割合：5人（13.9%） 「困ったことがあった」と回答した割合： <u>31人</u> （86.1%） |
| ↓ |
| 【理由（複数回答あり）】 生ごみの臭いに困った：28人（90.3%） 溜まったごみの保管場所に困った：9人（29.0%） |

② 燃やすごみ

週1回収集により溜まったごみの保管場所、紙おむつやペットのふんの臭いに困ったとの意見が多くありました。

| アンケート調査結果 |
|--|
| ○収集頻度が週1回になったことで 「困ったことはなかった」と回答した割合：21人（58.3%） 「困ったことがあった」と回答した割合： <u>14人</u> （38.9%） |
| ↓ |
| 【理由（複数回答あり）】 溜まったごみの保管場所に困った：7人（50.0%） おむつやペットのふんの臭いに困った：5人（35.7%） |

(3) 排出条件

組成分析調査において、毎回 10 袋のごみ排出袋を無作為に抽出し、各家庭から排出される生ごみの排出方法を確認しました。

① 生ごみとして排出可

| 区分 | 生ごみ排出方法の割合 |
|---------|------------|
| 2重袋以上 | 73% |
| 水切りネット | 27% |
| ティーバッグ等 | 20% |

② 生ごみとして排出不可

| 区分 | 生ごみ排出方法の割合 |
|---------|------------|
| 未開封食品 | 0% |
| 水切り用新聞紙 | 0% |

(4) 保管容器

生ごみや紙おむつ等の保管時の臭い対策のため、希望者7世帯に保管容器（ごみ箱型、バケツ型）を貸与しました。

（貸与品）

| 区分 | 容量 | 貸与世帯数 |
|------|-----|-------|
| ごみ箱型 | 30ℓ | 2世帯 |
| | 45ℓ | 3世帯 |
| バケツ型 | 11ℓ | 2世帯 |



ごみ箱型



バケツ型

①臭いについて

（アンケート調査において複数回答があったため、貸与世帯数と回答数は一致しません）

○生ごみ（6世帯）

| 区分 | 気になった | 気にならなかった |
|------|---------|----------|
| ごみ箱型 | 50%（2人） | 50%（2人） |
| バケツ型 | 50%（1人） | 50%（1人） |

○紙おむつ（2世帯）

| 区分 | 気になった | 気にならなかった |
|------|----------|----------|
| ごみ箱型 | 100%（2人） | 0%（0人） |

○その他（燃やすごみ）（1世帯）

| 区分 | 気になった | 気にならなかった |
|------|--------|----------|
| ごみ箱型 | 0%（0人） | 100%（1人） |

※生ごみ及び紙おむつについて、臭いが気になったと回答した人に聞き取りしたところ、保管容器の蓋が閉まっている状態では臭いは気にならず、蓋を開けて捨てる際に臭いが気になったとのことでした。

②容量について（聞き取り調査による）

○生ごみ

容量（11ℓ、30ℓ、45ℓ）の異なる保管容器を、協力世帯の希望に合わせて貸与したところ、いずれの世帯も一週間分の容量は対応可能でした。

| 区分 | 容量（ℓ） | 世帯人数 |
|------|-------|-------|
| ごみ箱型 | 30 | 2人、4人 |
| | 45 | 2人、5人 |
| バケツ型 | 11 | 1人、2人 |

○紙おむつ

紙おむつ使用者の年齢や人数により世帯毎の1週間あたり排出量は異なりますが、すでに家庭で使用しているものに加え、貸与する容器の容量は、一人あたり30ℓは必要でした。

| 区分 | 容量（ℓ） | 世帯人数 | 使用者数 |
|------|-------|------|------|
| ごみ箱型 | 30 | 4人 | 1人 |
| | 45 | 5人 | 2人 |

(5) 実験結果から分かったこと

① 分別

組成分析調査やアンケート調査等から、分別自体は概ね問題ない結果が得られましたが、家庭内での分別時に生ごみかどうかの判断が迷いやすい品目として、前回の実証実験（上山口地区）と同じ品目や新たにアイスの棒や焼き鳥の串等が挙げられたことから、より分かりやすい生ごみの定義を示す必要があります。

② 保管

生ごみについては、保管時の臭いやコバエ等の発生に苦慮している声が多く挙がり、各自で防臭剤や殺虫剤の使用、生ごみの冷蔵・冷凍保存等の対応が行われていました。

生ごみや紙おむつの保管時の臭い対策のため貸与した保管容器については、蓋の開閉時を除き、臭い対策については一定の効果があったものと考えますが、使用世帯が少なかったことから、今後も引き続き実証実験を実施し、効果を検証する必要があります。

③ 収集頻度

生ごみについては、保管時の臭いや水漏れ防止の観点から、一日ないし数日分を袋に入れて収集日にまとめてそのまま排出する事例が多く、アンケート調査でも臭いに困ったと回答した世帯が全体の70%を超えました。

また、燃やすごみについては、週1回収集でも可能との声もありましたが、紙おむつを使用している世帯やペットを飼っている世帯は、保管時の臭いから週1回収集では難しいとの声も挙がりました。

生ごみ及び紙おむつ等については、保管方法とあわせて収集頻度を検討する必要があります。

(6) 今後の検討課題

- ① 分別：生ごみの定義の決定
- ② 保管：家庭での生ごみ、おむつ等の臭い対策（保管容器の貸与等）
- ③ 収集：ごみの収集頻度

2 組成分析調査

排出された「生ごみ」と「燃やすごみ」の一人一日あたりのごみ排出量の把握や生ごみ分別の周知によるごみ量の推移、排出方法等を把握するため、組成分析調査を実施しました。

(1) 対象ごみ

対象世帯（36世帯）から排出された「生ごみ」と「燃やすごみ」

(2) 組成区分

分類区分は、「生ごみ」、「燃やすごみ」、「不適物（金属・ガラス類等）」の3区分としました。

(3) 調査日

表Ⅱ－1 組成分析調査実施日

| 調査 | 年月日 | 分別品目 |
|------|--------------|---------------|
| 第1回 | 令和4年5月23日（月） | 燃やすごみ（生ごみを含む） |
| 第2回 | 令和4年5月26日（木） | 燃やすごみ（生ごみを含む） |
| 第3回 | 令和4年5月30日（月） | 燃やすごみ（生ごみを含む） |
| 第4回 | 令和4年6月2日（木） | 燃やすごみ（生ごみを含む） |
| 第5回 | 令和4年6月13日（月） | 生ごみ |
| 第6回 | 令和4年6月16日（木） | 燃やすごみ |
| 第7回 | 令和4年7月11日（月） | 生ごみ |
| 第8回 | 令和4年7月14日（木） | 燃やすごみ |
| 第9回 | 令和4年8月11日（月） | 生ごみ |
| 第10回 | 令和4年8月14日（木） | 燃やすごみ |

※実証実験前後の排出量を比較するため、5月から組成分析調査を行いました。

3 調査集計

(1) 分別収集量

令和4年6月から8月に行った組成分析調査から、排出されたごみ排出量及び分別割合について、「生ごみ」収集日を表Ⅱ-2及び図Ⅱ-1に、「燃やすごみ」収集日を表Ⅱ-3及び図Ⅱ-2に示します。

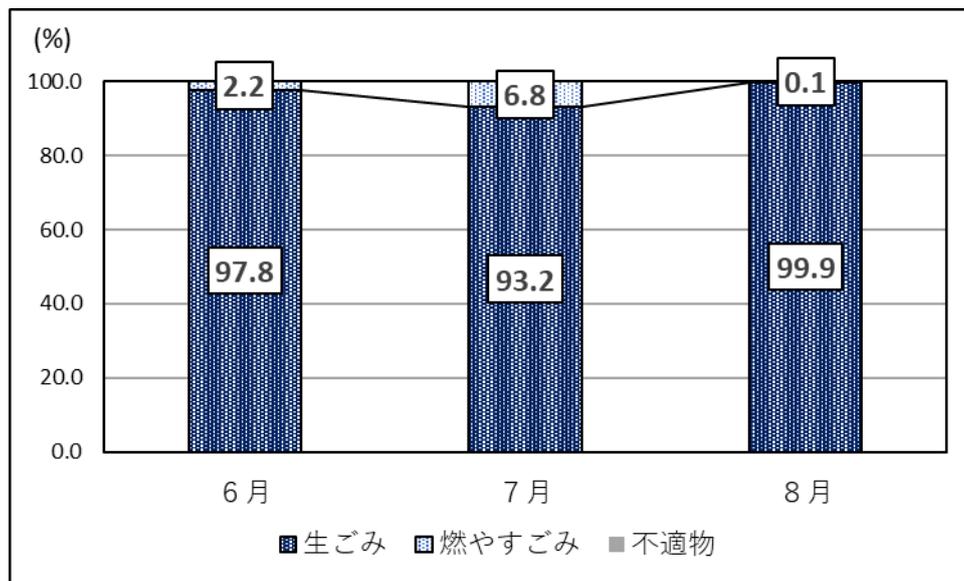
【生ごみ収集日】

表Ⅱ-2 「生ごみ」収集日に排出されたごみ排出量

(単位：kg)

| 品目 | R4.6.13 | R4.7.11 | R4.8.15 | 平均 |
|-------|---------|---------|---------|-------|
| 生ごみ | 92.4 | 92.9 | 114.3 | 99.9 |
| 燃やすごみ | 2.1 | 6.8 | 0.1 | 3.0 |
| 不適物 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 94.5 | 99.7 | 114.4 | 102.9 |

図Ⅱ-1 「生ごみ」収集日におけるごみ分別割合



【結果】

「生ごみ」収集日に排出された生ごみの分別割合は、6月から順に97.8%、93.2%、99.9%となり、分別精度が高い水準で推移しました。

【考察】

戸別訪問により実証実験内容を説明出来たことから、生ごみ分別が浸透していたことが想定されます。

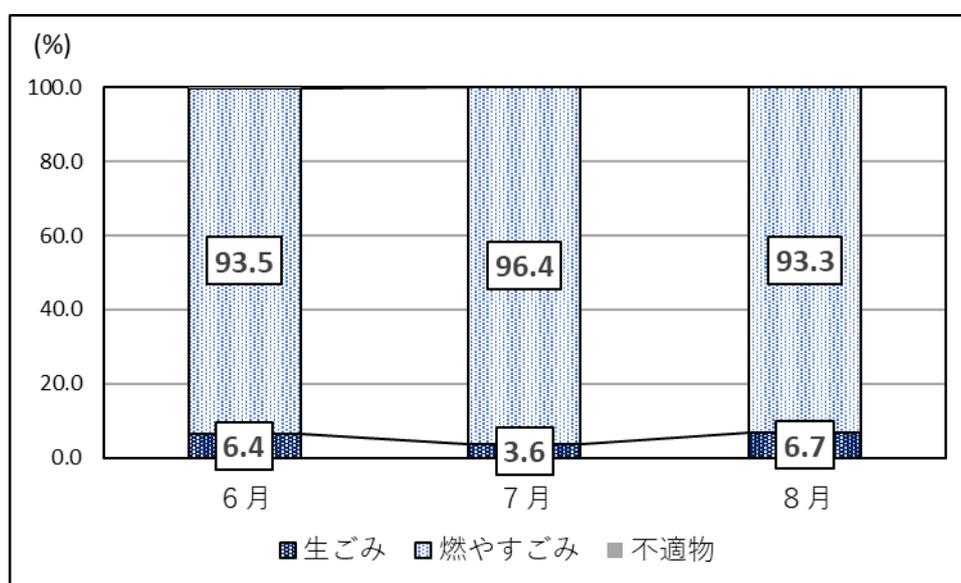
【燃やすごみ収集日】

表Ⅱ-3 「燃やすごみ」収集日に排出されたごみ排出量

(単位：kg)

| 品目 | R4.6.16 | R4.7.14 | R4.8.18 | 平均 |
|-------|---------|---------|---------|-------|
| 生ごみ | 6.7 | 4.1 | 6.6 | 5.8 |
| 燃やすごみ | 97.6 | 109.4 | 91.5 | 99.5 |
| 不適物 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 104.4 | 113.5 | 98.1 | 105.3 |

図Ⅱ-2 「燃やすごみ」収集日におけるごみ分別割合



【結果】

「燃やすごみ」収集日に排出された生ごみの分別割合は、6月から順に6.4%、3.6%、6.7%となり、分別精度が高い水準で推移しました。

【考察】

戸別訪問により実証実験内容を説明出来たことから、生ごみ分別が浸透していたことが想定されます。

(2) 「生ごみ」及び「燃やすごみ」の一人一日あたりの排出量

① 組成分析調査

1週間に排出されたごみ排出量（表Ⅱ－4）から一人一日あたりの「生ごみ」及び「燃やすごみ」排出量（以下「一人あたりのごみ量」という。）を算出し、表Ⅱ－5に示します。

表Ⅱ－4 1週間あたりのごみ排出量

(単位：kg)

| 品目 | 実証実験前 | | | | 実証実験後 | | | | |
|-------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 5月(1回目) | 5月(2回目) | 平均 | | 6月 | 7月 | 8月 | 平均 | |
| 生ごみ | 93.2 | 93.1 | 93.2 | 42.8% | 99.1 | 97.0 | 120.9 | 105.7 | 50.8% |
| 燃やすごみ | 116.9 | 132.1 | 124.5 | 57.2% | 99.7 | 116.2 | 91.6 | 102.5 | 49.2% |
| 不適物 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.0% | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0% |
| 合計 | 210.2 | 225.3 | 217.8 | 100% | 198.9 | 213.2 | 212.5 | 208.2 | 100% |

表Ⅱ－5 一人あたりのごみ量

(単位：kg)

| 品目 | 実証実験前 | | | 実証実験後 | | | |
|-------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 5月(1回目) | 5月(2回目) | 平均 | 6月 | 7月 | 8月 | 平均 |
| 生ごみ | 0.153 | 0.134 | 0.144 | 0.142 | 0.139 | 0.173 | 0.151 |
| 燃やすごみ | 0.192 | 0.191 | 0.191 | 0.142 | 0.166 | 0.131 | 0.146 |

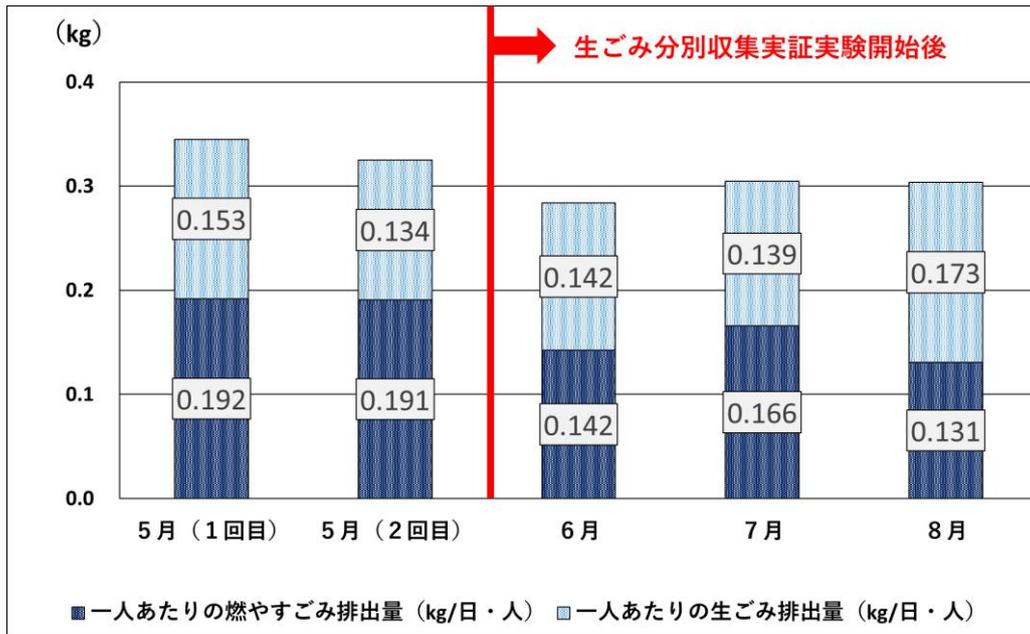
※協力世帯人数：5月(1回目)87人、5月(2回目)99人、6月～8月100人(聴き取り調査による)

一人あたりのごみ量は、実証実験前で「生ごみ」0.144kg、「燃やすごみ」0.191kgでした。

実証実験後の一人あたりのごみ量は、「生ごみ」0.151kg、「燃やすごみ」0.146kgでした。

なお、算出された一人あたりのごみ排出量を図Ⅱ－3に示します。

図Ⅱ－3 ごみ排出量（推計）



【考察】

一人あたりのごみ量は、「生ごみ」では、4.9%増加し、「燃やすごみ」では23.6%減少しました。実証実験期間中の聞き取り調査では、生ごみについて実験前後で「特別意識して取り組んだことはない」と回答した世帯が多く、特に8月の排出量の増加は、スイカやメロンといった含水率の高い野菜や果物等の影響があったものと考えられます。

(3) 分別率

① 重量比

1週間に排出された生ごみ総量のうち、「生ごみ」収集日に排出された生ごみ量の割合を表Ⅱ－6に示しました。

【分別率（重量比）の算定式】

| 算定式 | |
|----------|---|
| 分別率（重量比） | $= \frac{\text{「生ごみ」収集日に排出された生ごみ量}}{\text{1週間分の生ごみ総量【「生ごみ」及び「燃やすごみ」収集日に排出された生ごみ総量】}}$ |

【結果】

表Ⅱ－6 重量における分別率

| 6月 | 7月 | 8月 |
|-------|-------|-------|
| 93.2% | 95.8% | 94.5% |

【考察】

分別率は70%を想定していましたが、実験開始当初から90%を超える高い水準で推移しました。

② 数量比

「生ごみ」収集日に排出された袋の総数のうち、生ごみのみの袋の数の割合を表Ⅱ－7に示しました。

【分別率（数量比）の算定式】

| 算定式 | |
|----------|--|
| 分別率（数量比） | $= \frac{\text{「生ごみ」収集日に排出された生ごみのみの袋の数}}{\text{「生ごみ」収集日に排出された袋の総数}}$ |

【結果】

表Ⅱ－7 袋数における分別率

| 区分 | 6月13日（月） | | 7月11日（月） | | 8月15日（月） | |
|-----------------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | 袋数 | 割合 | 袋数 | 割合 | 袋数 | 割合 |
| 生ごみのみ | 32 | 97.0% | 24 | 82.8% | 34 | 91.9% |
| 生ごみ以外の 混入物あり | 1 | 3.0% | 5 | 17.2% | 3 | 8.1% |
| 全体 | 33 | 100% | 29 | 100% | 37 | 100% |

※2袋以上で排出する世帯や排出しなかった世帯もあり、対象世帯数とは一致しません。

【考察】

「生ごみ」収集日に排出されるごみの中には、「燃やすごみ」が混入しているものや「燃やすごみ」のみが排出されている事例が確認されました。

聞き取り調査の結果、前者は「生ごみ」の区分と判断して排出したものであり、後者は排出曜日の間違いであることが分かりました。実験を通して見ると高い分別率であったものの、更なる協力率を上げるためには、お知らせ等の周知をより分かりやすく充実させる必要があると考えます。

(4) 生ごみ以外のものの混入状況

「生ごみ」排出日に排出された混入物の一例は、次のとおりです。

| 燃やすごみ（ティッシュペーパー等） 資源物（ミックスペーパー等） | 食品の容器包装プラスチック 燃やすごみ（アイスの棒） |
|---|--|
|  |  |

写真 生ごみ以外のものの混入状況

【結果】

「生ごみ」収集日に排出された生ごみ以外の混入物については、全体を通すと割合は低かったものの、食品の容器包装プラスチックやアイスの棒などの混入が見られました。

【考察】

アイスの棒については、「燃やすごみ」として排出されることを想定していましたが、聞き取り調査の結果では、アイスの棒や焼き鳥の串など、食品と一体となって販売されていることや、材質が木であることから堆肥化されるとの考えから「生ごみ」として出していたとのご意見もいただいております。生ごみの定義については、分かりやすくする必要があります。

(5) 生ごみの排出方法

「生ごみ」収集日に排出されたごみ排出袋を無作為に 10 袋抽出し、生ごみの排出方法について確認しました。その結果を表Ⅱ-8に示します。

【生ごみの排出方法】

| 生ごみとしての排出可 | 生ごみとしての排出不可 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 透明または半透明の袋に入れる。 ② 臭いが気になる場合は、袋を2重にしても出せる。 ③ 水切りネットのまま出せる。 ④ ティーバッグ・ドリップバッグのまま出せる。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 未開封食品等、包装に入ったままの状態 ② 水切りなどに使用された新聞紙 |

表Ⅱ－8 生ごみ排出方法の割合

| 排出方法 | | 6月 | 7月 | 8月 | 平均 |
|------|---------|-----|-----|-----|-----|
| 排出可 | 2重袋以上 | 60% | 80% | 80% | 73% |
| | 水切りネット | 20% | 20% | 40% | 27% |
| | ティーバッグ等 | 30% | 20% | 10% | 20% |
| 排出不可 | 未開封食品等 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 水切り用新聞紙 | 0% | 0% | 0% | 0% |

【結果】

生ごみとして排出された袋の約73%が2重以上でした。

水切りネットで排出されたのは全体の27%、ティーバッグ等の生ごみと包装等が一体となった製品のまま排出されたのは全体の20%でした。

未開封食品や水切り用で使用した新聞紙については、見られませんでした。

【考察】

生ごみについては、保管時での臭いの問題から、一日ないし数日分の生ごみを袋に入れて、収集日にまとめてそのまま排出する事例が多く見られました。特に7月から8月にかけては、80%の袋が2重以上にしており、夏場は特に臭いや腐敗が早いことから小袋での対策を想定していましたが、それを裏付けるように前年度の上山口地区（10月から12月に実施）より高い割合となりました。

4 収集時に把握した事項

(1) 混入物排出状況

「生ごみ」及び「燃やすごみ」収集日に排出されたごみのうち、それぞれの収集品目以外のごみの排出状況（全部または一部）について、ごみ収集時に把握した割合を表Ⅱ－９に示します。

【結果】

表Ⅱ－９ 混入物排出世帯の割合

(単位：%)

| 収集日 | 6月 | 7月 | 8月 | 平均 |
|--------------------------|------|------|-------|------|
| 「生ごみ」収集日における燃やすごみの排出世帯割合 | 6.02 | 5.69 | 7.69 | 6.47 |
| 「燃やすごみ」収集日における生ごみの排出世帯割合 | 7.52 | 7.87 | 10.61 | 8.67 |

実験期間中の混入物排出世帯割合は、いずれも 10%以下（約3世帯分）となり高い分別率となりました。

【考察】

8月は猛暑日が続き、「生ごみ」の保管の難しさから、「燃やすごみ」収集日に「生ごみ」が排出されるケースが見受けられました。

(2) 鳥獣被害状況

収集時にカラス、猫などの鳥獣被害によるごみの散乱を確認した件数を表Ⅱ－10に示します。

【結果】

表Ⅱ－10 鳥獣被害件数

| | 6月 | 7月 | 8月 |
|--------|----|----|----|
| 鳥獣被害件数 | 0 | 0 | 0 |

【考察】

収集時には鳥獣被害は確認されませんでした。聞き取り調査では、カラスによるごみの散乱被害が1件あり、排出容器に重しを置くことで鳥獣被害対策をしてくださっている事例がありました。その他にも各自で被害の対処をしてくださった事例があったものと考えます。

5 聞き取り調査

実証実験期間中にごみの排出状況等を確認するため、聞き取り調査を行いました。

【聞き取り調査】

- ① 調査日：令和4年6月～8月
- ② 方法：環境課職員による直接訪問
- ③ 聞き取り世帯：36世帯対象（不在宅除く）
- ④ ご意見

| 項目 | 内容 | 人数 |
|-------|--|----|
| 生ごみ | 保管時に生ごみが臭う | 8 |
| | コバエの発生に困った | 7 |
| | 生ごみを畑に入れるようになった | 3 |
| | 保管場所に困った | 2 |
| | 冷凍保存した（冷凍庫が臭くなった） | 2 |
| | 冷蔵保存した | 1 |
| | 魚を捌く日を考えるようになった | 1 |
| | 蟻が来るようになった | 1 |
| | ウジ虫が発生した | 1 |
| | 水切りをしてもすぐに水分が出てくる | 1 |
| 燃やすごみ | 保管場所に困った | 2 |
| | 排出量が増えた | 1 |
| 分別 | 分別に迷った （生花、パイナップルの葉、食材を包んでいたラップ、筍の皮、かいわれ大根のフワフワ部分等） | 6 |
| | 面倒臭い | 1 |
| 保管容器 | 貸与されたバケツに入れておくと臭わない 蓋を開けると臭う | 3 |
| | 防臭剤を使用した 殺虫剤を撒いた | 2 |
| | 保管容器を購入した | 1 |
| 収集 | 週2回ずつなら協力できる | 1 |
| その他 | 分別は問題ない | 3 |

【考察】

聞き取り調査では、分別自体は概ね問題なく出来ているが、生ごみの保管時の臭いやコバエ等の発生に苦慮している声が多く、各自で防臭剤の購入や殺虫剤の散布、冷蔵・冷凍保存等により対応している事例がありました。

また、生ごみの収集が週1回に減っても通常と変わらず生活しているとの声もあり、生ごみ量を減少させるような傾向は見られませんでした。

燃やすごみについては、概ね週1回収集でも可能との声もありましたが、紙おむつを使用している世帯は保管時の臭いから週1回収集では難しいとの声もあり、収集回数については検討する必要があります。

Ⅲ 意見・質問・要望等

1 アンケート

実証実験協力世帯を対象に実施しました。

① 対象世帯数

36 世帯

② 調査票配布

ア. 配布日：令和4年8月29日（月）～31日（水）

イ. 配布方法：環境課職員による訪問又はポスティング

③ 調査票回答

ア. 回答期限：令和4年9月9日（金）

イ. 回答方法

環境課職員又はクリーンセンター収集作業員に手渡し

返信用封筒にて返送

④ 調査項目

分別方法の理解

分別の難易度

週1回収集に際して困ったこと

保管容器の使用状況

分別に際して工夫したこと

⑤ 調査結果

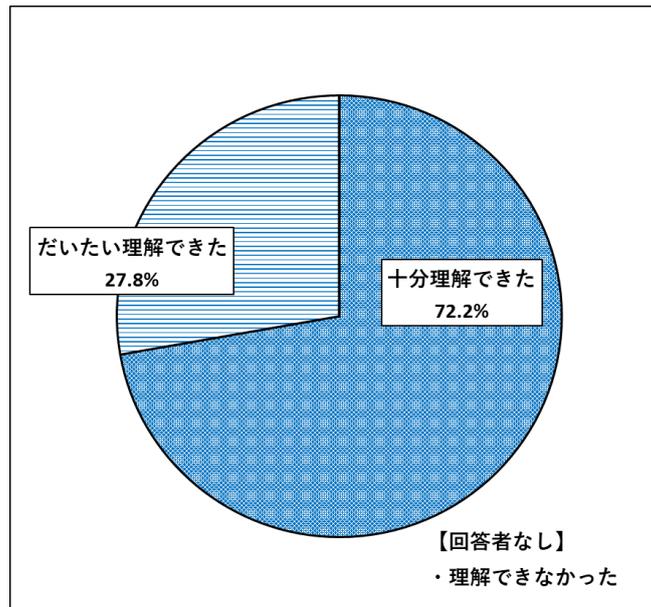
回答数：36 世帯

集計方法：複数回答、未記入もあるため、全ての回答実数を記載

問 1

実証実験周知チラシの配布で、「生ごみ」の分別方法や排出方法を理解できましたか。

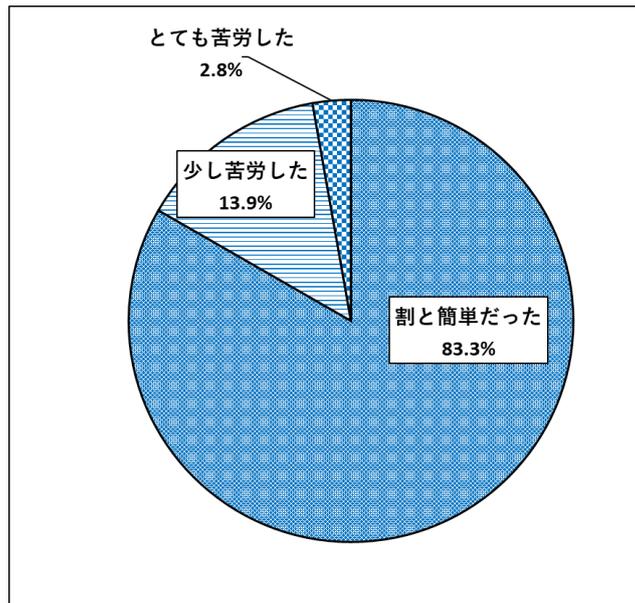
- 十分理解できた : 26人 (72.2%)
- だいたい理解できた : 10人 (27.8%)
- 理解できなかった : 0人



問2

生ごみの分別は難しかったですか。また、生ごみを捨てるときに「分別に迷った生ごみ」があればご記入ください。

- 割と簡単だった : 30人 (83.3%)
- 少し苦労した : 5人 (13.9%)
- とても苦労した : 1人 (2.8%)



※分別に迷った生ごみ

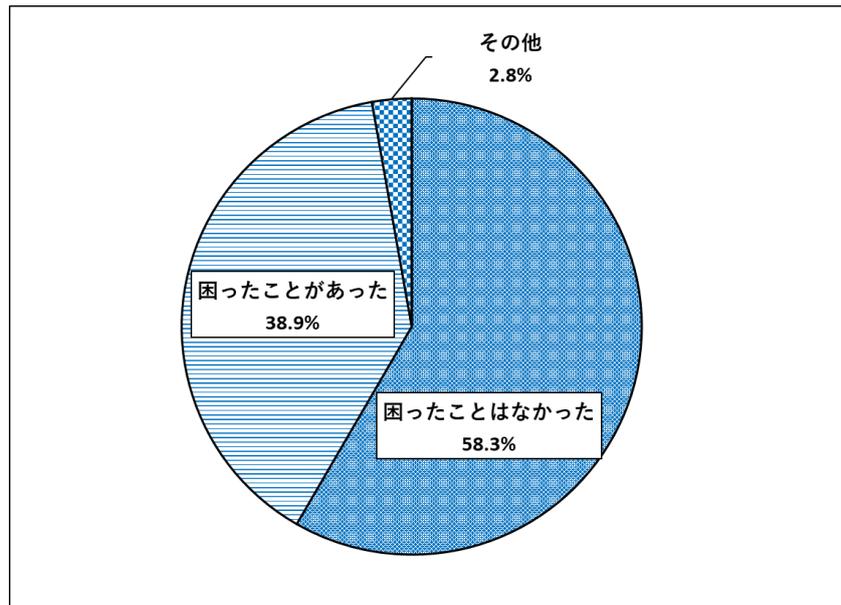
- 排水口用水切りネット
- コーヒーフィルター、ティーバッグ
- ヨーグルトの内側の銀色のフタ、コーヒーの粉
- 焼き鳥の串
- 生花
- 筍の皮
- 貝殻
- かいわれ大根のフワフワ、麦茶

問3

収集頻度がそれぞれ週1回になったことで困ったことはありましたか。

①燃やすごみ

- 困ったことはなかった : 21人 (58.3%)
- 困ったことがあった : 14人 (38.9%)
- その他 : 1人 (2.8%)

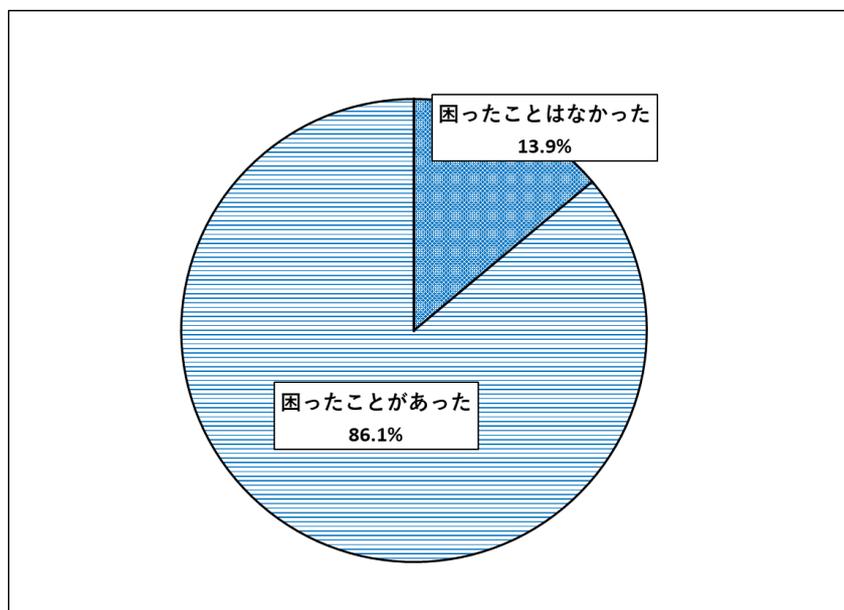


※その他の回答

○量が増えた。

②生ごみ

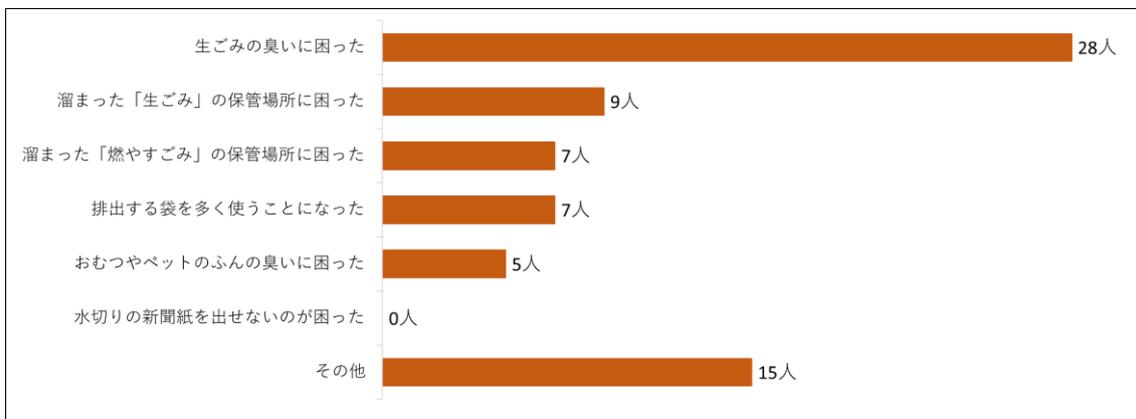
- 困ったことはなかった : 5人(13.9%)
- 困ったことがあった : 31人(86.1%)
- その他 : 0人



問 4

問3で「困ったことがあった」と回答した人にお尋ねします。困ったことがあった理由を教えてください。（複数回答可）

- 生ごみの臭いに困った : 28人
- 溜まったごみの保管場所に困った（生ごみ） : 9人
- 溜まったごみの保管場所に困った（燃やすごみ） : 7人
- 排出する袋を多く使うことになった : 7人
- おむつやペットのふんの臭いに困った : 5人
- 水切りの新聞紙を出せないのが困った : 0人
- その他 : 15人



※その他の回答

- コバエ、ハエ、アブが発生した。
- 蟻が集ってきた。
- カラスが荒らすため、収集日までの管理が大変だった。
- 専用の消臭ゴミ箱を購入した。
- 臭い対策の消臭剤を購入した。
- 容器包装を週2回にしてほしい。
- 水切りを何度しても溜まってしまうため、水切りの方法を知りたい。

| | |
|----|--|
| 問5 | 保管容器が貸与された人にお尋ねします。どの保管容器を使用し、何のごみを入れましたか。また、使用した際に臭いは気になりましたか。 (複数回答可) |
|----|--|

(使用者：7人)

- ごみ箱型 : 5人
 バケツ型 : 2人

保管したごみと臭いの状況について

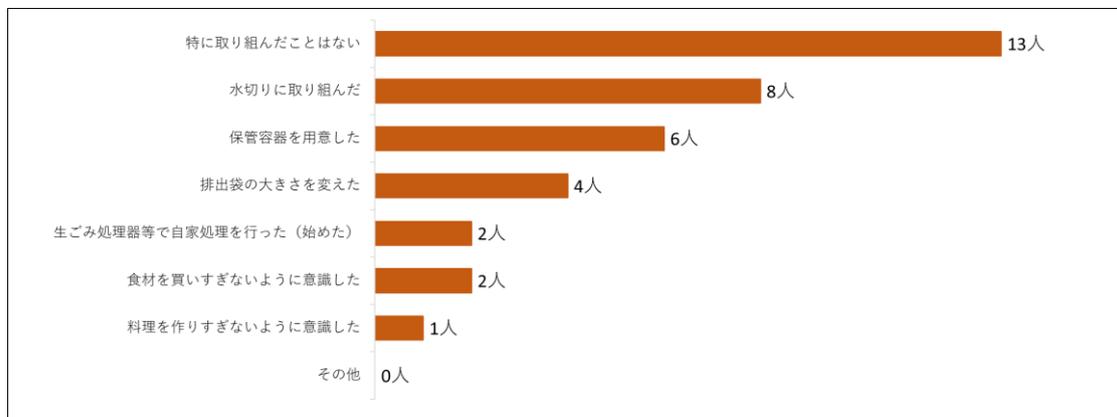
| | 使用した保管容器 | 保管したごみ | 臭いについて | |
|---|------------|-------------|--------|----------|
| | | | 気になった | 気にならなかった |
| 1 | ごみ箱 (45ℓ) | 生ごみ | | ○ |
| 2 | ごみ箱 (30ℓ) | 生ごみ | ○ | |
| | | 紙おむつ | ○ | |
| 3 | ごみ箱 (45ℓ) | 生ごみ | ○ | |
| | | 紙おむつ | ○ | |
| 4 | ごみ箱 (30ℓ) | 生ごみ | | ○ |
| 5 | ごみ箱 (30ℓ) | その他 (燃やすごみ) | | ○ |
| 6 | バケツ型 (11ℓ) | 生ごみ | | ○ |
| 7 | バケツ型 (11ℓ) | 生ごみ | ○ | |

※「臭いが気になった」と回答した人に聞き取りしたところ、保管容器の蓋が閉まっている状態では臭いは気にならず、蓋を開けて捨てる際に臭いが気になったとのことでした。

問 6

実証実験を通して工夫したことはありますか。(複数回答可)

- 特に取り組んだことはない : 13人
- 水切りに取り組んだ : 8人
- 保管容器を用意した : 6人
- 排出袋の大きさを変えた : 4人
- 生ごみ処理器等で自家処理を行った(始めた) : 2人
- 食材を買いすぎないように意識した : 2人
- 料理を作りすぎないように意識した : 1人
- その他 : 0人



【実証実験に関するご意見があれば、ご自由に記入してください。】

自由記述でご意見をいただいた主な内容は次のとおりでした。

- 生ごみを週2回にしてほしい：12人
- 燃やすごみを週2回にしてほしい：4人
- 環境に良いため協力したい：3人
- 生ごみの臭いが気になった：2人
- 生ごみ分別はストレスだった：2人
- 実証実験を実施した理由を知りたい：1人
- 虫の発生に困った：1人
- 燃やすごみ量が増えて保管場所に困った：1人
- 排出袋が増えた：1人
- 実証実験の効果を知りたい：1人
- 高齢者には分別は難しいと思う：1人
- 外における分別の入れ物があればよかった：1人
- 処理コストが下がるのであれば分別は細かくなってもよい：1人
- 生ごみ分別した際の費用対効果を示してほしい：1人
- 他の人がどのようにごみを減らしているのか知りたい：1人

【参考】

上山口地区及び真名瀬地区の実験結果（概要）は次のとおり

| 項目 | | 上山口地区 | 真名瀬地区 |
|--------------------|---------|-----------------------|-------------|
| 年度 | | 令和3年度 | 令和4年度 |
| 区域 | | 全域 | 希望者 |
| 季節 | | 10月～12月 | 6月～8月 |
| 生ごみの定義 | | 人の口に入るもの (食べられるもの) | 同左 |
| 排出方法 (※下段は実験結果) | 袋 | 透明又は半透明 | 同左 |
| | 2重袋以上 | 可 (57%) | 同左 (73%) |
| | 水切りネット | 可 (13%) | 同左 (27%) |
| | ティーバッグ等 | 可 (10%) | 同左 (20%) |
| | 未開封食品 | 素材ごとに分別 (3%) | 同左 (0%) |
| | 水切り用新聞紙 | 不可 (3%) | 同左 (0%) |
| ごみ排出量 | 生ごみ | 0.110kg/日 | 0.151kg/日 |
| | 燃やすごみ | 0.143kg/日 | 0.146kg/日 |
| ごみ排出量の増減率 | 生ごみ | △17.9% | 4.9% |
| | 燃やすごみ | △19.6% | △23.6% |
| 生ごみ分別率 | 重量比 | 89.1% | 94.5% |
| | 数量比 | 79.1% | 90.6% |